

掘り込まれた中庭を飛ぶ、白亜のブリッジ。木をながめながら渡ってほしい。

必要となって来ます。機能としては半層分の階段に他なりません。どうせなら掘込まれた中庭式である事を生かし、演出効果のあるものを導入してやろうと考えました。なかなか話が到達しませんでした。ここでようやくブリッジが登場します。ブリッジは中庭の上空を飛び、緩い勾配を上りながら上層階の玄関へと人間を導く役割を持つことになりました。

**低い建物、予想以上に大きな空間、そしてブリッジ**

さて、これらを踏まえた上で建物の中を仮想的に歩き回ってみましょう。

既に述べたようにこの家は半層分沈められているため、外部から見ると1.5階建て程度の低い建物に見えることになりました。また主要な開口は中庭に向いているため、外部には窓が殆どなく、入口らしきドアがあるだけの極めてシンプルなお外観になっています。むしろ背が低くて地味な建物と言った方が適当かも知れません。

しかしながら、ひとたびドアを開けて内部に入るとその印象は一変する筈です。来訪者がまず驚くのは、その空間の大きさでしょう。建物の内部にまた屋外が存在することは少なからず見る側の意表をつく筈です。

ですが、その上足元が掘込まれていることで外観から想像される内部を遙かに上回る大空間が生じており、来訪者の何気ない予想は幾つもの点から裏切られることになりました。

もちろん、ほぼ同時にブリッジの存在も目に入る筈です。心構えのなかった来訪者はやや慎重に足を踏み出し、空中を飛ぶブリッジを渡りはじめることでしょう。中庭の底、少し離れた位置には広葉樹が一本植えられており、その梢を眺めながら緩い階段を少しずつ上って行きます。

ブリッジを渡り終えるとそこは玄関ポーチになっており、もう一度右手のドアを開けて今度こそ本当の屋内に入ります。靴脱ぎ場を上がると下駄箱やクローゼットに囲まれた玄関ホール、その奥には通路があり、向こうが明るくなっていることから広い空間へ通じていることが分かります。この通路を通り抜ける際に、脇に下層階への階段があることにも気付きました。後で下りてみましょう。

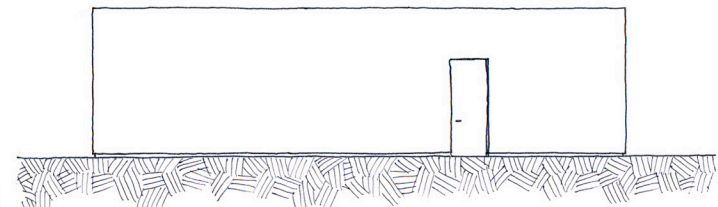
やや狭い通路を抜けると、広く明るい居間へと出ます。天井はそれほど高いわけではないのですが、中庭側一面が全てガラスで覆われているため非常に明るく、大空間に面した開放感を満喫することが出来ます。その一方でガラス面の反対側は全面壁とされており、ここに長いベン

チを設けることで背中を委ねることの出来る安心感ある空間をつくり出しています。居間の奥にはキッチンカウンターがあり、テーブルと向かい合ってダイニングセットが形成されています。

最大の見所は、何よりもまずガラスの向こうに広がる景色です。改めてガラス越しに見る中庭は家の内部そのものよりも大きく、二層分の高さがあることもあってかなりの大空間になっています。この大空間は白

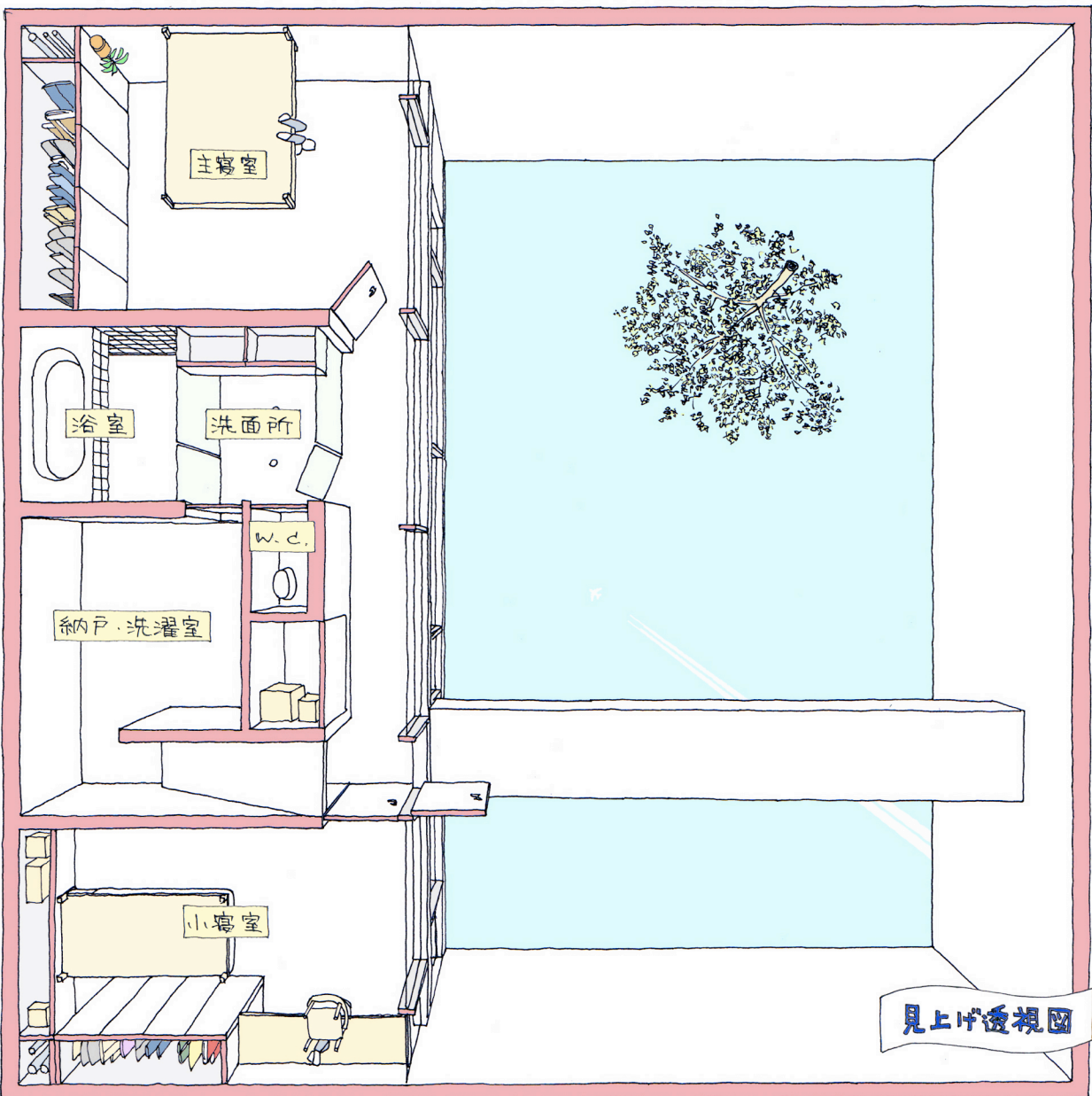
い壁で囲まれただけのシンプルなものであり、目を煩わせる要素の一切が切り取られています。上空から光が差し込むなかブリッジが一本空間を横切り、その脇には木が風に葉を揺らせています。

下の階にも下りてみましょう。階段はブリッジの延長線上にあるため下りきるとブリッジの真下に出ることになり、中庭へ出る為の扉はブリッジをちょうど庇とする位置に来ることになります（我ながら上手い構成です）。すぐに中庭に出てみたいところですが、屋内左手には小寝室が、右手にはバスルームと主寝室がまだ控えています。外に出たい気持ちを一旦抑えて小寝室に入ってみましょう。



外見はむしろ低くおとなしく。外からは内部に隠された空間を想像することが出来ない。

小寝室は、客間あるいは子供の個室として想定されています。天井はあえて低めにつくられ三方を壁で囲まれています。中庭側の全面にガラスが入っているため、閉塞感はありません。決して明るい部屋ではないのですが、中庭と反対側の壁上部にスリガラスの高窓が設けられており、部屋全体を柔らかく照らし出しています。部屋の奥にはベッドが置かれ、中庭に面して机が作り付けら



見上げ透視図

階段を挟んで反対側には通路があり、その右手にはガラス壁で仕切られたバスルームが目に入ります。中